



ニューズレターの発行に寄せて



大笹 編集委員長

昨年6月の総会より、支部会報編集委員長の大役を中田前委員長から引き継ぐことになりました大笹です。支部会員の皆様には今までと同様に会報の発行にご支援を頂きたく、お願い申し上げます。

さて、支部会報は昭和32年の第1号以来現在までに128号を発行致しております。内容の充実した通常の会報と各種記念誌を合わせて毎年2回発行してきた実績は、歴代の編集委員長、編集委員のご努力によるものであり、我が支部が誇る伝統であると考えております。しかしながら、皆様ご存じのように、近年の激しい経済状況を反映して支部の財務状況を改善する必要が生じ、そのための経費削減の一環として今まで年2回発行していた支部会報を年1回（支部大会に合わせて6月発行）にすることとなりました。記事の種類、ページ数等はこれまで通りを基本として会報のレベルは維持するとともにホームページの活用を図り、「インフォメーション」や「YFE通信」など、これまで会報に掲載してきたニュース的な記事は支部ホームページに掲載することに致しました。

さらにホームページへのアクセスが困難な会員の便宜も考え、ホームページと同じ内容のニューズレターを年1回発行することとなりました。

ここにニューズレターの第一号を発行することが出来たことは全編集委員の喜びとするところであります。特に、ホームページの管理とニューズレターの作成に全面的に携わられた戸羽委員および印刷に関わられた事務局の綾井さんには篤く御礼を申し上げます。支部会員の皆様には、今後ともニューズレターと通常の支部会報に対するご意見を編集委員会にどしどしお寄せ頂くようお願い申し上げます。

平成15年度北海道支部大会

平成15年度北海道支部大会が平成15年6月6日(金)小樽グランドホテル(小樽市)で開催されました。

午前9時から会場受付が始まり、午前9時30分から正午過ぎまで行われた研究発表会では13件の研究報告等が発表されました。

その後、理事・評議員らの参加のもと支部評議員会が開催され、平成14年度活動経過および財務報告、平成15年度活動方針案および予算の提案があり、すべて了承されました。引き続き本部理事の野口 徹氏(北大)から工学会本部の動向に関する報告があり、特に若手研究員に対する研究費助成制度について詳しく説明がありました。引き続き、午後から平成15年度の支部総会が行われ、野村支部長の挨拶の後、桃野企画技術委員長から評議員会で審議された内容に基づいて報告があり、協議事項についてはすべて了承されました。

午後2時過ぎから「地場産業・ものづくりと人づくり」と題してシンポジウムが行われ、井上一郎 社長(光合金製作所)の司会で、田中惣平 社長(田中工業)、木下修 社長(木下合金)、田中一良 社長(田中酒造)の三人が登壇して、それぞれの会社経営や職に対するこだわりなどを中心に、時折、会場からも参加しながら討論が展開されました。



研究発表会



平成15年度支部総会



シンポジウム

研究会活動

北海道支部の専門別研究会は、継続して活動している「鑄造技術研究会」のほか、平成13年度から立ち上げたマグネシウム合金鑄物研究会、平成14年度からスタートした「鑄造技術教育研究会」の3研究会が活動しています。このほか、平成15年度は、秋田市において東北支部と合同研究会を開催しました。

マグネシウム合金鑄物研究会

マグネシウム合金鑄物研究会の2年間の活動を締めくくる研究会が、平成15年6月25日午後3時から室蘭工業大学で開催されました。

研究会では、はじめに「Mg合金分野の最近の動向」と題して、附田之欣氏(株)日本製鋼所)からMg合金材料開発に関わる研究成果が報告されました。引き続き、「マグネシウムのろう接、拡散接合」と題して田湯善章氏(室蘭工大)からMg合金材料の複合化に関する実験結果の報告がありました。

マグネシウム合金鑄物研究会は、この研究会をもって活動を終了しました。

鑄造技術研究会

鑄造技術研究会(第6期)の第2回研究会が、平成15年9月2日(火)午後2時からテクノプールさっぽろセミナールームで開催されました。研究会には講師を含めて10名の参加があり、前回の研究会に引き続いて鑄造技術における将来動向を考慮したCAD/CAM/CAE技術に関連したテーマで議論が行われました。

まず、戸羽主査から講習の講師として招いたローランド・ディー・ジー(株)の橋本氏、矢澤氏の紹介があり、あわせて、研究会で計画しているCAD/CAM/CAEの利用技術関連の取り組みをより具体的に進めるため、前回の申し合わせに基づき安価な3D-CADシステム“Rhinoceros”を研究会経費により導入したことの報告がありました。

次に、「切削ラピッドプロトタイピングを利用した3Dデータの有効利用について」と題し、ローランド・ディー・ジー(株)の矢澤賢裕氏から最近の製造業を取り巻く情勢や企業の製品開発力向上の鍵となる3D形状データの有効利用という観点から3Dプロッタを利用した切削ラピッドプロトタイピング技術に関する講演がありました。引き続き、「Rhinocerosによる3D形状データの作成」と題し、道立工業試験場の安田星季氏から“Rhinoceros”に関して他の3D-CADシステムとの比較も交えてその特徴の紹介、形状データ作成の実演、3D形状データから実体モデルを作成する手順、さらにいくつかのモデリング事例が紹介されました。

その後、会場をローランド・ディー・ジー(株)のショールームへ移動し、3Dプロッタによる切削モデリングにより実体モデルを作成する実演を見学しながら様々な質疑応答を行いました。

北海道支部・東北支部 合同研究会

北海道支部と東北支部の合同部会が、平成15年7月22日(火)午後1時から秋田大学(秋田市)のVBLセミナー室で開催され、北海道支部から桃野正企画委員長はじめ、野口徹氏(北大)、沖野美佐雄氏(日本製鋼所)、戸羽篤也氏・岩越睦郎氏(道立工試)の5名が出席しました。



合同研修会で挨拶する桃野企画委員長

冒頭、東北支部を代表し堀江皓氏(岩手大学)から歓迎の意味も込めてあいさつがありました。引き続き、北海道、東北両支部のYFE活動の紹介の後研究発表が行われ、東北支部から2題、北海道支部から3題の研究発表がありました。

休憩を挟んで、特別講演にうつり、「高い生産技術力が企業を助ける」と題して大鷲晴夫氏(秋田渥美工業(株)工場長)から、また「機械・構造物の破壊事故はなぜ起こるか」と題して野口氏(北大・工学部)から、それぞれ講演がありました。最後は、北海道支部を代表して桃野正氏(室蘭工大・支部企画委員長)があいさつを行いました。

研究会終了後、同大学内で懇親会が行われ参加者どうしの交流を深めました。

現場技術研修会 ～ 北海道青年鑄造技術者懇話会 (北海道YFE)

北海道YFEから引き継いで北海道青年技術者懇話会が主催する第6回鑄造現場技術研修会が支部大会前日の平成15年6月5日(木)小樽市で開催されました。午後1時、集合場所のJR小樽駅からタクシーに分乗して工場見学先の(株)ミツウマ本社工場へ向かい、約90分間にわたってゴム靴を中心とした製品の製造ラインを見学しました。

その後、(株)田中工業(小樽市奥沢)の研修会室に移動して研修会を行いました。研修会は講師に(有)日下レアメタル研究所の鹿毛秀彦氏を招き、「鑄鉄の組織と強度およびその非破壊検査」というテーマで約2時間、特に超音波と渦電流を利用した鉄鑄物の黒鉛形状や基地組織の判定法を中心に講話をしていただきました。研修会終了後、場所を移して懇親会を行いました。



工場見学の様子



鹿毛氏が鑄鉄の組織と強度について講話

会報編集委員会

平成15年10月31日午後2時から、テクノプールさっぽろで支部編集委員による支部会報編集会議がもたれました。会議には、前任の中田委員長から引き継いだ大笹委員長をはじめ4名の編集委員と事務局の綾井氏、そして前中田委員長がオブザーバとして出席しました。

会議では、まず平成16年6月に発行を予定している支部会報第129号の内容の検討しました。

ひき続き、2月に第1号の発行となる「ニューズレター」について、内容や編集方針の話し合いを行い、ホームページのインフォメーションの情報をもとに記事をまとめて発行することで準備を進めることになりました。

次に、支部会報の発行が年に1度になることに伴い、会報に掲載している会社広告とその費用について協議しました。ニューズレターへの広告掲載もあわせて原案をつくり、次の理事会で説明して一定の結論を得ることにしました。

また、これまで全国大会が行われる年は12月に発行していた支部会報を前倒しする形で特集号を組んでいましたが、再来年の秋に札幌市で開催を予定している第147回全国大会に合わせて第131号の発行をどのように考えるかについても、同じく理事会に諮って結論を得ることにしました。

第143回全国講演大会 (富山大会)

日本鑄造工学会主催の第143回全国講演大会が、平成15年10月28～29日を中心に富山県富山市の富山国際会議場で開催されました。

この大会には、北海道支部からも多数が参加し、研究発表などを行って活発な情報交換が行われました。特に今回の講演プログラムには4つのオーガナイズドセッションが組み込まれるなど、聴講しやすい講演会の工夫のあとが見られました。また、講演会初日にあたる28日の午後3時過ぎから、地元の講師を招いて「高岡の銅器 その歴史と現状」、「氷見鯊(ぶり)と定置網」という演題による特別講演が行われました。



講演会での発表の様子

2日目の29日午後には、「ものづくりの伝承と教育」というテーマでYFEセッションが行われ、北海道支部からは室蘭工大の桃野氏がこのテーマに関する北海道支部の取り組みを紹介しました。このセッションでは、関西大学のJABEEへの対応の経過報告などもあり、今後のものづくり教育に関する一つの方向性を考える上で大変に興味深い内容でした。

(社)日本鑄造工学会

北海道支部からのお知らせ

鑄造技術教育研究会

鑄造技術教育研究会を以下の通り開催し、併せて高校生に対する鑄造実習を計画しています。つきましては、当日実習の補助をいただける方を募集致します。

日時：平成16年2月23日(月) 18:00～21:00

対象：旭川東高校定時制卒業生 60名 (2グループに分けて行う)

場所：北海道旭川東高等学校(旭川市6条通り11丁目左 電話：0166-26-1053)

実施内容：鑄造キットを用いてスズ(ホワイトメタル)を溶解し、生型に鑄造してアクセサリーなどを製作する。

第144回全国講演大会

日本鑄造工学会第144回全国講演大会が名古屋市において平成16年5月24～25日の日程で開催されます。

平成16年度北海道支部大会

平成16年度北海道支部大会は、平成16年6月12日(土)に北海道大学(札幌市)で開催いたします。

平成15年度 北海道支部役員

平成14年7月の支部総会での承認により、平成15年度の支部役員は以下の通りです。
(任期は平成16年6月まで。順不同・敬称略)

支部長

野村 英雄

理事

井上 一郎	岩淵 義孝	氏家 義太郎	大笹 憲一	大町 晃敏
小野 信市	工藤 昌行	佐藤 昭彦	佐藤 孝造	竹花 奎一
田中 雄一	津村 治	戸羽 篤也	中田 進一	野口 徹貢
浜地 建治	湊 純一郎	宮本 剛汎	桃野 正	渡辺 貢

評議員

上杉 信行	大参 達也	長船 康裕	鴨田 秀一	川島 真一
熊井 俊一	佐藤 五十雄	白井 邦彦	進藤 静江	田中 惣平
布川 勝朗	橋本 政人	長谷川 慎一	檜山 正人	松浦 清隆

監査

木下 修 中村 明男

事務局

綾井 辰彦

(社)日本鑄造工学会
北海道支部ニュースレター

第1号

発行：平成16年1月23日

発行所：(社)日本鑄造工学会北海道支部
室蘭市茶津町4番地
(株)日本製鋼所室蘭製作所内
電話：0143-22-9226

WWW：http://www.jfs-hokkaido.jp/